

令和2年度 第1回米子市廃棄物減量等推進審議会 議事録概要

<事務局>

【資料1～6まで説明】

<会長>

ご質問・ご意見等ございましたらよろしくお願いします。

<A委員>

家庭系ごみについてはほぼ分かるのだが、事業系ごみはすごく範囲が広い。どういうものが具体的にあるのか。例えば、飲食業等の残飯とかいろいろなものもおそらく事業系ごみに含まれると思う。どういう種類があって、なぜこれが減らないのか。事業系ごみって何だろうなど。

<事務局>

事業系ごみの組成分析を今まで行っておらず、事業者が持ち込むごみについてはどういうものが多いのか大体分かるのだが、許可業者が回収するごみについてはどこからどういうごみが出されているのか把握ができていないのが実情である。今後、事業系ごみの組成分析が必要になってくるかと思う。

<事務局>

事業所から出てくるものは、産業廃棄物以外の廃棄物が事業系一般廃棄物である。紙くずや食品残さが事業系一般廃棄物。米子市の場合は事業構造の関係もあると思うが、そういった業を営んでいる業者が他市の比べて多いと思われる。そこから出てくる事業系一般廃棄物が多い。

<会長>

事業系ごみの定義として、産業廃棄物と会社で社員の生活に関わるごみが事業系ごみと理解しているが、飲食店の残飯も事業系ごみに入るのか、あれは産業廃棄物ではないのか。

<事務局>

産業廃棄物という定義があり、20種類の品目がある。例えば廃プラスチックなど。この種類に該当しないものが事業系の一般廃棄物である。必ずしも社員が使ったごみではなくて、産業廃棄物の区分に当てはまらないものである。次回分かりやすい資料を準備する。

<会長>

具体的にはどのようなものが。

<事務局>

食品残さ、紙くず、剪定枝、草などが事業系一般廃棄物として多く出てくるもの。

<会長>

食品産業がたくさんあるが、どこから出てくるのか分からないと思うのだが。

<事務局>

例えば食堂で廃棄されるもの、売れ残ったものは事業系一般廃棄物に該当する。生ごみが事業系一般廃棄物に該当する。

<会長>

では、意見及び回答について説明を。

<事務局>

【資料1～6に関する意見及び回答について説明】

<会長>

次の項目の説明をお願いしたい。

<事務局>

【資料7～10まで説明】

<会長>

ご質問・ご意見等ございましたらお願いします。

<B委員>

資料7の人口推計だが、基本的な考え方があるのか。国の人口推計や県の人口推計との違いがあったりとか、比較をしてみてもベースが違うとどうなのか。

<事務局>

まず、人口の考え方について。資料7の2ページ目、(2)をご覧いただきたい。人口ビジョンは基となるデータが国勢調査の人口である。国勢調査が最も実態にあった人口だと思うが、ごみについては環境省の調査があり、調査の基になっているのが、10月1日現在の住民基本台帳人口になる。国の目標値があるが、これは住民基本台帳人口を基に出されたものになる。今回のごみ処理基本計画についても10月1日現在の住民基本台帳人口を基に計画しようとするもの。一方、生活排水についても国の調査があり、こちらは住民基本台帳の年度末人口が使われている。人口推計が3種類ありややこしいが、国や他の自治体との比較を行うために人口をそれぞれ推計しているのでご了承ください。

次に県の目標値との違いについて。県と市では基となるデータが異なり、資料8の7ページの注釈にあるように、事業系の古紙類と事業系食品残さを含むか含まないかということである。米子市の計画では、米子市が収集を行う又は米子市又は西部広域の施設で処理を行う、いずれかに該当するものを数値の把握の対象としている。事業系の古紙類、食品残さについては、民間で処理されているものであり、すべてを正確に把握するのが難しく、特に市町村ごとに分けて把握するのが非常に困難であるということで、外している。

<会長>

米子市の推計値の910gはどこから来たのか。資料9の5ページの数値を足せば910gになるのか。

<事務局>

資料9の5ページの、令和7年度の推計値910gについては、資料9の1ページから4ページの合計値になる。ただし、3ページの家庭系ごみ(資源物を除く)は国で目標値が設定されているもので、家庭系ごみから抜き出したものになる。可燃ごみ・不燃ごみ・不燃性粗大ごみ、乾電池・蛍光管の合計値、いわゆる資源物を除いた数値。3ページ目の数値については家庭系ごみの中の参考数値ということで合計には含まれていない。

<会長>

事業系ごみの分母は同じか、米子市の人口で割っているのか。事業系であれば、従業員で割るのではないのか。

<事務局>

国の事業系ごみの目標値は、総量为目标値としている。しかし、総排出量になると、すべてのごみの量を人口で割るため、事業系ごみを含んで人口で割って算出している。

<会長>

事業で出すごみに対して人口で割ると具合が悪いと思うが。従業員の数で割って事業系ごみの多

い少ないを出すのでは。人口で割ると事業所の多い市町村と事業所の少ない市町村では比較にならないのでは。

<事務局>

国の調査では、事業系ごみについても人口で割って出している。他の自治体と比較して事業系ごみが多いのか少ないのかと判断する際は、米子市と産業構造が似たグループと比較をしている。事業所の少ない自治体との比較は行わない。類似団体という産業構造と人口が似たグループとの比較をしている。

<C 委員>

資料 8 の 7 ページの鳥取県の廃棄物処理計画に、「4 R+Renewable」とある。リフューズ・リデュース・リユース・リサイクル、リユース・リサイクルは皆さん言えると思うが、リフューズ「いらない・断る」、リデュース「ごみを出さない」、リユース「再利用する」、リサイクル「形を変えて別のものにして使う」というところだが、「持続可能な取組である Renewable」というところが分からない。

<事務局>

県の方で設定されている方針の中に「4 R+Renewable」がある。Renewable という単語であるが、国のプラスチック資源循環戦略に出てきている言葉である。正確な訳は分からない。米子市では市民アンケートの結果、4 R の認知度が低いということもあって、新しい言葉を付けずに 4 R に重点を置いて取り組んでいきたいというところである

<C 委員>

以前の会議の時にも言ったが、事業系のごみがなかなか減らないというところ。結局、事業で働いている人たちも家庭で生活している人である。例えば、ある事業所の休憩室でゴミ箱にいっぱい古紙類が入っていた。みんなごみに捨てている。これは資源にしないの、回収しないのと聞くと、家ではするけどここではね、という反応であった。ある内科医院ではたくさんのパンフレットをゴミ箱に捨てられていた。回収できるものをごみにしている。家では分別するのに、事業所では分別しないという傾向があるな、と経験からみている。一人一人が 4 R をしていますか、分かっていますかというところをもっともっと問いかけていかないといけないのでは、と思う。

<会長>

質問にあった「Renewable」について、県に聞いて具体的にこの問題だと考えておられるに違いないので、次回確認をお願いしたい。

<事務局>

また情報提供をさせていただく。

<事務局>

先ほどの、家ではするけれど事業所では、というのは、今後事業所の排出ごみを減らす上で非常にポイントになるところだと思うので、こちらについても啓発できるように考えていきたい。

<会長>

資料 6 の 1 ページ、ごみ処理における課題として、米子市と類似団体、全国との比較があるが、米子市は頑張っていると思っていたが、家庭系ごみ（資源物を除く）では、類似団体、全国と比べて多くなっており、大きな課題だと思うが、ご説明をいただきたい。

<事務局>

家庭系ごみの資源物を除いたものが、多いとご指摘をいただいている。可燃ごみ、不燃ごみ・不

燃性粗大ごみなどになる。こちらの削減につながる施策と目標値については次回お示しする予定にはしているが、ごみの組成調査でご覧いただいたように、可燃ごみについては、食品ロスについて削減する余地があるほか、雑がみ・空き箱などの古紙類もたくさん入っている状態。これをどのように啓発を行って減らしていくかということが課題と認識している。不燃ごみについてもまだ資源化できるものが入っている状態であるので、こちらについても啓発が必要である。このようなことを踏まえて施策をお示ししたいと考えている。

<会長>

私の印象では、米子市は分別を徹底して、各家庭に協力いただいて家庭系ごみを減らしている印象で、類似団体よりはるかに多いというのはちょっとショックな数字。対策をお願いしたい。

<C 委員>

昨年度、米子市のごみ袋の価格について検討をしてきた。米子市のごみ袋は高いという話で。ごみ袋は高いかもしれないが、ごみを減らすということをすればワンサイズ小さい袋に入れられるし、ふんわり入れて大きな袋に入れて出すのか、ギュギュッと入れて出すというところでもずいぶん違う。その辺を工夫してということをつかりやすくイラストなどを使って伝えてはどうかという意見を出した。家ではギュギュッとするのだけれど、事業所ではふんわり、おそらく事業所で使うプラスチック袋などの使用量も多いと思うので、そこを減らすという意味でも、わかりやすく、具体的にできることを提案するというのを、どんどんしていかないといけないかなと思う。

<事務局>

今後ごみをどのように減らしていくか、資源化していくかというところは、みんなで減らしましょうと言ってもなかなか減るものではないので、具体的にこうすればこれくらいごみが減りますなどの働きかけが必要ではないかと考えている。今のご意見を参考にさせていただいて施策を考えていきたい。

<D 委員>

米子市の家庭ごみ（資源物を除く）が多いということだが、何年か前に、鳥取県で冷蔵庫2台持ちのご家庭に向けた「もう結構キャンペーン」というものがあって、冷蔵庫を1台に減らす取り組みをしたご家庭に県の名産品がもらえるというキャンペーンを見た。土地柄で冷蔵庫2台持ち以上のご家庭が多いとか、不燃性の粗大ごみが多いとかという傾向は米子市で何か把握されているのか。

<事務局>

都会に比べると、置場があるとどうしても物がそのままになる傾向があるのではないかとってはいるが、具体的な調査や把握をしているわけではない。ただ、米子市では、混合粗大ごみの収集をしていないので、そういう物もなかなか簡単に処分できず、家にあるというお宅もおそらく多いのではないかと考えているところである。

<会長>

資料2の2ページ目の収集運搬体制で、集団回収とは具体的にどういう団体か。

<事務局>

集団回収に取り組んでいる団体は、自治会や子ども会、老人会が主なもの。PTAもされているところがある。

<A 委員>

廃品回収とか。資源回収。

<会長>

例えば、彫刻ロードの清掃をしているが、市に袋をもらって拾っているが、それはこの中ではどこに入るのか。

<事務局>

いわゆるボランティア清掃になるが、こちらの収集運搬体制には入っておらず、別の扱いとなる。

<会長>

がんばっても数字が出て来ないんですね。

<B 委員>

基本的な経費がかかっていないものでは。

<事務局>

こちらの収集運搬体制については、拾われたものではなく、家か事業所から出るものを対象にしている。

<会長>

一斉清掃の大量のごみも入っていないのか。

<事務局>

クリーンセンターの処理量には入ってくるが、収集運搬については家庭か事業所からのものを対象としている。

<会長>

分かりました。

廃棄物は多岐にわたるが、少しでも皆様のご理解が進めばと思っている。

最近、ハンバーガーショップでストローをやめるとか、トレーを紙にするとか、世界的な動きがありますね。計画の中では強調されることはないのか。市として推進するとかということはまだ聞かないが。

<事務局>

プラスチックの削減については、国でも積極的に取り組まれているところであるし、県でも廃棄物処理計画の中で一番最初に出てくる項目になる。資料10の基本方針の中の「4Rの推進」や、捨てられた後の処理もあるので「適正処理の推進」というところで関係してくるところである。特にワンウェイプラスチックを削減していかないといけないと考えており、「4R」と「適正処理」の中でプラスチックについても掲げていきたいと考えている。

<E 委員>

大成商事が古紙などのステーションを作って回収している。あれは市に届け出る必要があるのか。いいアイデアだなと思って。かなりの量が出ている。

<事務局>

市内各所に回収拠点を設けてされているが、基本的に市に届出は必要のないもの。回収量も市では把握をできていない状況。民間の施設となると市町村を超えてとなるので、市町村ごとの把握が難しい。

<E 委員>

収益性を兼ねた回収拠点だなと見ている。量としてはかなり多い量が出ていますよね。なかなかいいアイデアだなと。ああいうことを行政が先じてやっておけばよかったかなと。

<会長>

その分米子市の資源ごみの回収が減っているわけですね。米子市の儲けが少し減っているわけだ

が、資源が有効に回っていくのはいい。

<B 委員>

市民には歓迎されているので、それはそれでいいのでは。

<会長>

資料6の最後の方に課題が書いてあるが、高齢者対策を検討する必要がある、不法投棄の対策を検討する必要がある、これらは次回、方向づけとかが説明されるわけか。

<事務局>

高齢者対策については、市の福祉部門とも協議をしているが、なかなかすぐには実施ができないという状況。次回の審議会で具体的に実施しますというところまでは難しいと思うが、検討を引き続き進めていきたいと考えているところである。

<事務局>

いろんなご意見を伺いながら取り入れられるものがあれば取り入れていきたいと思っている。福祉部局とも協議しているが、それ以外にも情報収集しながら、次回に具体的なものを提示できるかわからないが、そういう方向を出していきたい。

<会長>

廃棄物の回収は自治会が請け負っている性格があると思うが、だんだん高齢化になって自治会が機能不全になったり、やめられたり、マンション等では自治会にほとんど入っていなかったり。どんどん社会が変わっていくことに対して、廃棄物の計画も社会の変化に合わせていかなければいけないところもあるので、ぜひ盛り込んでいただければと思っている。

<会長>

他にご意見ありませんか。

他にないようであれば、本日は長時間にわたりありがとうございました。